

経済の長期低迷に苦しむポルトガル

国際金融情報センターブラッセル事務所駐在員 橋本 択摩

今世紀に入り、低成長が続くポルトガル経済

ヨーロッパの最西端に位置するポルトガルは人口 1,000 万人程度の小国である。しかし、00 年議長国期間中に加盟国の経済構造改革を促す「リスボン戦略」を打ち出し、07 年議長国期間中には、現在でも各国で批准手続きが進められている「リスボン条約」の調印がなされるなど、欧州の政治動向の中で独自の存在感を示してきた。また、現在の欧州委員会のバローゾ委員長もポルトガルの首相経験者である。

一方、経済状況に目をやると、長期の低迷に苦しんでいる様子が窺える。EMU 第一陣を果たした 90 年代後半には、EU 平均を大きく上回る成長を成し遂げ、EU 内先進国へのキャッチアップを果たしてきたが、今世紀に入ってから急速にその伸びを低下させ、03 年にはマイナス成長を記録している。近年、ポルトガルの GDP 成長率はほぼ一貫して EU 平均を下回って推移しており、08 年 9 月の金融危機後の国際的な需要の落ち込みの影響を受けて、さらに経済環境が悪化した。09 年 1 - 3 月期実質 GDP は前期比▲1.6%、前年比▲3.7%と 3 期連続のマイナス成長となっている。

09 年は深刻な景気後退の年に・・・

欧州諸国は、99 年のユーロ導入、04 年の EU 東方拡大（中東欧 5 ヶ国、バルト三国の EU 新規加盟）を経て、域内貿易額を増やしてきたが、金融危機後、欧州の東西を問わず需要が低下、けん引役を見出せないまま縮小均衡に陥っている。ポルトガルも同様、主要な貿易相手国であるスペイン、ドイツ、フランスに対して輸出が大幅に落ち込んでおり、3 月の輸出額はいずれも前年比▲20%を下回っている。輸出額全体では、2 - 4 月を通して前年比▲23.0%と低い水

準になっている。

国内、国際需要の双方に対する先行き不透明感の高まり、金融機関の貸出し姿勢の厳格化などから、企業の生産・投資活動は大きく減退している。

また、09 年 1 - 3 月期失業率は 8.9%と、08 年 10 - 12 月期 7.8%から大きく悪化した。失業率の急速な上昇は当地では最も大きな懸念材料となっている。

このように投資、輸出の落ち込みや失業率の上昇が見込まれることから、09 年のポルトガル経済は深刻な景気後退に陥るとみられている。09 年 1 - 3 月期 GDP の速報値が発表された 5 月 15 日、政府は経済見通しを大きく下方修正し、09 年 GDP 成長率を前年比▲3.4%とした。

国際競争力の向上が急務

ポルトガルの金融機関は、他の欧米金融機関のようにサブプライム関連商品による損失を被っているわけではなく、隣国スペインのように住宅バブルを経験したわけでもない。今回の金融危機で外需の落ち込みの影響を大きく受けたものの、ポルトガル経済においては、むしろ長期停滞の原因となっている構造問題に目を向けるべきだとの意見が多い。

つまり、長期低迷の主要因は、低い教育水準に基づく貧弱な人的資本、過度な規制による非効率な国内市場、高い労働コストなどに起因する低生産性であるとみられている。その結果、伝統産業である繊維・皮革産業のマーケット・シェアは中国など新興諸国に、対内直接投資の受け入れは東欧諸国に奪われている。ポルトガルでは、国際競争力の向上という古くからの課題解決が急務となっている。